

四半期報告書

(第132期第3四半期)

株式会社群馬銀行

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	22
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	23

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年2月3日
【四半期会計期間】	第132期第3四半期(自平成28年10月1日 至平成28年12月31日)
【会社名】	株式会社 群馬銀行
【英訳名】	The Gunma Bank, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役頭取 齋藤 一 雄
【本店の所在の場所】	群馬県前橋市元総社町194番地
【電話番号】	(027)252-1111(大代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員総合企画部長 入澤 広之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋二丁目3番21号 株式会社群馬銀行 東京事務所
【電話番号】	(03)3271-1801(代表)
【事務連絡者氏名】	東京事務所長 茂木 和 拓
【縦覧に供する場所】	株式会社群馬銀行 東京支店 (東京都中央区日本橋二丁目3番21号) 株式会社群馬銀行 大宮支店 (埼玉県さいたま市大宮区下町二丁目1番地1) 株式会社群馬銀行 宇都宮支店 (栃木県宇都宮市大通り二丁目2番1号) 株式会社群馬銀行 大阪支店 (大阪府大阪市中央区備後町四丁目1番3号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 宇都宮支店及び大阪支店は、金融商品取引法の規定による縦覧に供する場所ではありませんが、投資者の便宜のため四半期報告書を縦覧に供するものであります。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成27年度第3 四半期 連結累計期間	平成28年度第3 四半期 連結累計期間	平成27年度
		(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
経常収益	百万円	104,318	108,830	136,220
うち信託報酬	百万円	—	—	—
経常利益	百万円	34,871	32,291	43,625
親会社株主に帰属する 四半期純利益	百万円	23,233	24,620	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	百万円	—	—	28,616
四半期包括利益	百万円	15,643	29,009	—
包括利益	百万円	—	—	△5,370
純資産額	百万円	529,145	527,095	507,727
総資産額	百万円	7,665,221	7,959,689	7,631,510
1株当たり四半期純利益金額	円	51.68	55.47	—
1株当たり当期純利益金額	円	—	—	63.78
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	円	51.61	55.37	—
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額	円	—	—	63.68
自己資本比率	%	6.83	6.54	6.58
信託財産額	百万円	—	—	—

		平成27年度第3 四半期 連結会計期間	平成28年度第3 四半期 連結会計期間
		(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)	(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	円	14.52	16.14

- (注) 1 当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。
- 2 第3 四半期連結累計期間に係る1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。
- 3 自己資本比率は、((四半期) 期末純資産の部合計 - (四半期) 期末新株予約権 - (四半期) 期末非支配株主持分) を (四半期) 期末資産の部合計で除して算出しております。
- 4 信託財産額は、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務に係るものを記載しております。なお、連結会社のうち、該当する信託業務を営む会社は提出会社1社のみであります。

2 【事業の内容】

当第3 四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、次のとおりとなりました。

総資産は期中3,281億円増加し7兆9,596億円となり、負債は期中3,088億円増加し7兆4,325億円となりました。また、純資産は期中193億円増加し5,270億円となりました。

主要勘定につきましては、貸出金は期中1,021億円増加し5兆1,125億円となりました。有価証券は期中85億円減少し2兆1,246億円となりました。預金は期中491億円増加し6兆3,340億円となりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、次のとおりとなりました。

経常収益は、株式等売却益の増加などから前年同期比45億12百万円増加し1,088億30百万円となりました。経常費用は、貸倒引当金繰入額の増加などから前年同期比70億92百万円増加し765億39百万円となりました。

これらの結果、経常利益は、前年同期比25億79百万円減少し322億91百万円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、繰延税金資産の再計上などにより前年同期比13億86百万円増加し246億20百万円となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりとなりました。

「銀行業」の経常収益は前年同期比34億4百万円増加し904億61百万円、セグメント利益は前年同期比14億85百万円減少し306億47百万円となりました。

「リース業」の経常収益は前年同期比9億51百万円増加し173億8百万円、セグメント利益は前年同期比5億20百万円減少し5億59百万円となりました。

なお、報告セグメントに含まれない「その他」の経常収益は前年同期比1億65百万円増加し25億58百万円、セグメント利益は前年同期比5億76百万円減少し10億90百万円となりました。

①国内・海外別収支

当第3四半期連結累計期間の資金運用収支は、前年同期比12億3百万円減少し611億33百万円となりました。また、役務取引等収支は、前年同期比7億59百万円減少し81億10百万円となりました。

なお、各収支合計は、国内が前年同期比26億99百万円減少し709億23百万円、海外が前年同期比42百万円減少し4億84百万円、国内及び海外の合計(相殺消去後)が前年同期比27億41百万円減少し714億8百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第3四半期連結累計期間	61,768	568	—	62,337
	当第3四半期連結累計期間	60,642	491	—	61,133
うち資金運用収益	前第3四半期連結累計期間	64,814	924	△115	65,624
	当第3四半期連結累計期間	64,269	1,175	△187	65,256
うち資金調達費用	前第3四半期連結累計期間	3,045	356	△115	3,287
	当第3四半期連結累計期間	3,626	684	△187	4,122
役務取引等収支	前第3四半期連結累計期間	8,882	△12	—	8,870
	当第3四半期連結累計期間	8,120	△9	—	8,110
うち役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	14,253	2	—	14,256
	当第3四半期連結累計期間	13,715	2	—	13,718
うち役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	5,371	14	—	5,385
	当第3四半期連結累計期間	5,595	12	—	5,607
その他業務収支	前第3四半期連結累計期間	2,971	△28	—	2,942
	当第3四半期連結累計期間	2,160	3	—	2,163
うちその他業務収益	前第3四半期連結累計期間	17,671	12	—	17,683
	当第3四半期連結累計期間	19,030	3	—	19,033
うちその他業務費用	前第3四半期連結累計期間	14,700	40	—	14,741
	当第3四半期連結累計期間	16,869	—	—	16,869

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内に本店を有する連結子会社(以下「国内連結子会社」という。)であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外に本店を有する連結子会社(以下「海外連結子会社」という。)であります。

2 資金調達費用は、金銭の信託運用見合費用(前第3四半期連結累計期間1百万円、当第3四半期連結累計期間0百万円)を控除して表示しております。

3 相殺消去額は、「国内」と「海外」との内部取引額を相殺消去した金額であります。

②国内・海外別役務取引の状況

役務取引等収益は、前年同期比 5 億37百万円減少し137億18百万円となりました。その内訳の主なものは預金・貸出業務45億68百万円、為替業務36億33百万円及び投資信託取扱業務16億57百万円であります。

役務取引等費用は、前年同期比 2 億21百万円増加し56億 7 百万円となりました。

この結果、役務取引等収支は、前年同期比 7 億59百万円減少し81億10百万円となりました。

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第3四半期連結累計期間	14,253	2	—	14,256
	当第3四半期連結累計期間	13,715	2	—	13,718
うち預金・貸出業務	前第3四半期連結累計期間	4,578	0	—	4,578
	当第3四半期連結累計期間	4,567	0	—	4,568
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	3,672	2	—	3,674
	当第3四半期連結累計期間	3,631	1	—	3,633
うち投資信託取扱業務	前第3四半期連結累計期間	2,387	—	—	2,387
	当第3四半期連結累計期間	1,657	—	—	1,657
うち保険代理店業務	前第3四半期連結累計期間	1,055	—	—	1,055
	当第3四半期連結累計期間	950	—	—	950
うち代理業務	前第3四半期連結累計期間	408	—	—	408
	当第3四半期連結累計期間	370	—	—	370
うち証券関連業務	前第3四半期連結累計期間	181	—	—	181
	当第3四半期連結累計期間	302	—	—	302
うち保証業務	前第3四半期連結累計期間	136	0	—	136
	当第3四半期連結累計期間	164	0	—	164
うち保護預り・貸金庫業務	前第3四半期連結累計期間	91	—	—	91
	当第3四半期連結累計期間	89	—	—	89
うち信託関連業務	前第3四半期連結累計期間	12	—	—	12
	当第3四半期連結累計期間	32	—	—	32
役務取引等費用	前第3四半期連結累計期間	5,371	14	—	5,385
	当第3四半期連結累計期間	5,595	12	—	5,607
うち為替業務	前第3四半期連結累計期間	612	3	—	615
	当第3四半期連結累計期間	605	0	—	606

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

2 相殺消去額は、「国内」と「海外」との内部取引額を相殺消去した金額であります。

③国内・海外別預金残高の状況

○預金の種類別残高(未残)

種類	期別	国内	海外	相殺消去額(△)	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第3四半期連結会計期間	6,107,387	70,303	△4,914	6,172,776
	当第3四半期連結会計期間	6,294,065	43,711	△3,760	6,334,016
うち流動性預金	前第3四半期連結会計期間	3,900,191	122	—	3,900,314
	当第3四半期連結会計期間	4,116,982	49	—	4,117,031
うち定期性預金	前第3四半期連結会計期間	2,124,818	70,180	△4,914	2,190,083
	当第3四半期連結会計期間	2,101,095	43,662	△3,760	2,140,996
うちその他	前第3四半期連結会計期間	82,377	—	—	82,377
	当第3四半期連結会計期間	75,987	0	—	75,987
譲渡性預金	前第3四半期連結会計期間	220,627	—	—	220,627
	当第3四半期連結会計期間	270,578	1,164	—	271,743
総合計	前第3四半期連結会計期間	6,328,014	70,303	△4,914	6,393,403
	当第3四半期連結会計期間	6,564,644	44,876	△3,760	6,605,759

(注) 1 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。

「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

2 流動性預金=当座預金+普通預金+貯蓄預金+通知預金

3 定期性預金=定期預金+定期積金

4 相殺消去額は、「国内」と「海外」との内部取引額を相殺消去した金額であります。

④国内・海外別貸出金残高の状況

○業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第3四半期連結会計期間		当第3四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	4,932,072	100.00	5,062,225	100.00
製造業	739,612	14.99	694,672	13.72
農業、林業	7,464	0.15	7,846	0.15
漁業	1,910	0.04	4,410	0.09
鉱業、採石業、砂利採取業	4,022	0.08	3,487	0.07
建設業	171,002	3.47	174,880	3.45
電気・ガス・熱供給・水道業	38,316	0.78	45,323	0.90
情報通信業	27,075	0.55	23,791	0.47
運輸業、郵便業	147,986	3.00	151,776	3.00
卸売業、小売業	460,980	9.35	444,885	8.79
金融業、保険業	184,686	3.74	158,590	3.13
不動産業、物品賃貸業	512,121	10.38	561,496	11.09
医療・福祉	244,947	4.97	261,378	5.16
その他サービス業	216,688	4.39	227,567	4.50
地方公共団体	111,842	2.27	103,292	2.04
その他	2,063,408	41.84	2,198,822	43.44
海外及び特別国際金融取引勘定分	59,494	100.00	50,301	100.00
政府等	—	—	—	—
金融機関	—	—	—	—
その他	59,494	100.00	50,301	100.00
合計	4,991,567	—	5,112,527	—

(注) 「国内」とは、当行(海外店を除く)及び国内連結子会社であります。
「海外」とは、当行の海外店及び海外連結子会社であります。

⑤「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づく信託業務の状況

「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営む会社は提出会社1社です。

なお、前連結会計年度末及び当第3四半期連結会計期間末においては、信託財産額はありません。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりませんので、キャッシュ・フローの状況の分析は記載しておりません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題、研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、当行及び当行の関係会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はあります。

研究開発活動については該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,351,500,000
計	1,351,500,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月3日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	470,888,177	同左	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	470,888,177	同左	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年12月31日	—	470,888	—	48,652	—	29,114

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 25,811,000	—	権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 444,662,800	4,446,628	同上
単元未満株式	普通株式 414,377	—	同上
発行済株式総数	470,888,177	—	—
総株主の議決権	—	4,446,628	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、「従業員持株会専用信託」所有の株式2,468千株（議決権の数24,684個）及び株式会社証券保管振替機構名義の株式が6千株（議決権の数60個）含まれております。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当行所有の自己株式99株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社群馬銀行	群馬県前橋市元総社町 194番地	25,811,000	—	25,811,000	5.48
計	—	25,811,000	—	25,811,000	5.48

(注) 上記のほか、中間財務諸表において自己株式と認識している当行株式が2,468千株あります。これは、「従業員持株会専用信託」の導入に伴い、当中間会計期間末において「野村信託銀行株式会社（従業員持株会専用信託口）」（以下「信託口」という。）が所有している当行株式であり、当行と信託口は一体であると認識し、信託口が所有する当行株式を自己株式として計上していることによるものです。

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

- 1 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
- 2 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（自平成28年10月1日 至平成28年12月31日）及び第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
現金預け金	335,643	466,701
コールローン及び買入手形	-	80,000
買入金銭債権	11,564	11,359
商品有価証券	1,039	1,135
金銭の信託	4,967	4,421
有価証券	※2 2,133,238	※2 2,124,681
貸出金	※1 5,010,417	※1 5,112,527
外国為替	3,196	7,732
リース債権及びリース投資資産	43,898	45,790
その他資産	32,852	48,969
有形固定資産	67,732	68,590
無形固定資産	8,623	9,594
繰延税金資産	1,416	1,517
支払承諾見返	15,870	14,125
貸倒引当金	△38,951	△37,458
資産の部合計	7,631,510	7,959,689
負債の部		
預金	6,284,836	6,334,016
譲渡性預金	136,209	271,743
コールマネー及び売渡手形	29,296	29,122
債券貸借取引受入担保金	270,574	364,131
借入金	257,764	273,348
外国為替	292	308
社債	-	10,000
新株予約権付社債	22,536	23,298
その他負債	45,002	53,120
役員賞与引当金	62	46
退職給付に係る負債	17,890	17,563
役員退職慰労引当金	571	531
睡眠預金払戻損失引当金	1,070	1,125
ポイント引当金	151	138
偶発損失引当金	1,008	1,024
特別法上の引当金	-	0
繰延税金負債	32,564	30,867
再評価に係る繰延税金負債	8,081	8,081
支払承諾	15,870	14,125
負債の部合計	7,123,782	7,432,593

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
純資産の部		
資本金	48,652	48,652
資本剰余金	29,140	29,140
利益剰余金	326,122	345,164
自己株式	△17,296	△21,382
株主資本合計	386,619	401,574
その他有価証券評価差額金	112,745	115,610
繰延ヘッジ損益	△134	△93
土地再評価差額金	14,287	14,287
為替換算調整勘定	463	△296
退職給付に係る調整累計額	△12,196	△10,221
その他の包括利益累計額合計	115,165	119,285
新株予約権	377	413
非支配株主持分	5,564	5,822
純資産の部合計	507,727	527,095
負債及び純資産の部合計	7,631,510	7,959,689

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
経常収益	104,318	108,830
資金運用収益	65,624	65,256
(うち貸出金利息)	44,100	42,936
(うち有価証券利息配当金)	20,746	21,652
役務取引等収益	14,256	13,718
その他業務収益	17,683	19,033
その他経常収益	※1 6,754	※1 10,822
経常費用	69,447	76,539
資金調達費用	3,288	4,123
(うち預金利息)	1,750	1,233
役務取引等費用	5,385	5,607
その他業務費用	14,741	16,869
営業経費	43,719	46,504
その他経常費用	※2 2,312	※2 3,435
経常利益	34,871	32,291
特別利益	3	-
固定資産処分益	3	-
特別損失	185	200
固定資産処分損	124	139
減損損失	60	61
金融商品取引責任準備金繰入額	-	0
税金等調整前四半期純利益	34,689	32,090
法人税、住民税及び事業税	9,007	11,150
法人税等調整額	2,096	△3,910
法人税等合計	11,104	7,239
四半期純利益	23,584	24,850
非支配株主に帰属する四半期純利益	351	229
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,233	24,620

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	23,584	24,850
その他の包括利益	△7,941	4,158
その他有価証券評価差額金	△8,150	2,875
繰延ヘッジ損益	△60	40
為替換算調整勘定	△22	△760
退職給付に係る調整額	218	1,975
持分法適用会社に対する持分相当額	74	27
四半期包括利益	15,643	29,009
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,292	28,740
非支配株主に係る四半期包括利益	350	268

【注記事項】

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
破綻先債権額	5,509百万円	4,996百万円
延滞債権額	56,992百万円	52,596百万円
3ヵ月以上延滞債権額	1,070百万円	1,296百万円
貸出条件緩和債権額	44,012百万円	43,634百万円
合計額	107,585百万円	102,523百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

※2 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額

前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
32,136百万円	41,420百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
株式等売却益	3,331百万円	8,034百万円

※2 その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
貸出金償却	6百万円	16百万円
貸倒引当金繰入額	一百万円	2,574百万円
株式等売却損	35百万円	21百万円
貸出債権売却損	218百万円	173百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
減価償却費	4,436百万円	4,316百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,962	6.5	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	2,491	5.5	平成27年9月30日	平成27年12月4日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「従業員持株会専用信託」(以下「ESOP信託」という。)に対する配当金(平成27年6月24日定時株主総会25百万円、平成27年11月6日取締役会20百万円)を含めております。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,916	6.5	平成28年3月31日	平成28年6月27日	利益剰余金
平成28年11月7日 取締役会	普通株式	2,670	6.0	平成28年9月30日	平成28年12月6日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、ESOP信託に対する配当金(平成28年6月24日定時株主総会20百万円、平成28年11月7日取締役会14百万円)を含めております。

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	86,780	16,025	102,805	1,512	104,318
セグメント間の内部経常収益	276	331	608	880	1,488
計	87,056	16,356	103,413	2,393	105,806
セグメント利益	32,132	1,079	33,212	1,667	34,879

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、物品等の輸送業務、現金自動設備の保守等業務及び保証業務を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	33,212
「その他」の区分の利益	1,667
セグメント間取引消去	△8
四半期連結損益計算書の経常利益	34,871

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、営業用店舗等(土地)1ヵ所及び営業用店舗等(建物)2ヵ所の帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、60百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

1 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	90,150	17,008	107,158	1,671	108,830
セグメント間の内部経常収益	311	299	610	886	1,496
計	90,461	17,308	107,769	2,558	110,327
セグメント利益	30,647	559	31,207	1,090	32,298

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、物品等の輸送業務、現金自動設備の保守等業務、証券業務及び保証業務を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	31,207
「その他」の区分の利益	1,090
セグメント間取引消去	△6
四半期連結損益計算書の経常利益	32,291

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

銀行業セグメントにおいて、営業用店舗等(土地)1ヵ所及び営業用店舗等(建物)4ヵ所の帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、61百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

※1 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

※2 四半期連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載しております。

※3 時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は含めておりません。

1 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	7,304	7,338	33
地方債	32	32	0
社債	1,536	1,555	19
その他	8,529	8,625	95
外国債券	3,364	3,459	95
その他	5,165	5,166	0
合計	17,403	17,552	148

当第3四半期連結会計期間(平成28年12月31日)

	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	3,202	3,228	25
地方債	11	11	0
社債	2,053	2,078	24
その他	8,012	8,173	160
外国債券	3,430	3,590	160
その他	4,582	4,582	0
合計	13,279	13,491	211

2 その他有価証券

前連結会計年度（平成28年3月31日）

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
株式	84,499	179,385	94,886
債券	1,370,261	1,408,132	37,871
国債	550,285	567,265	16,979
地方債	555,020	572,976	17,955
社債	264,955	267,891	2,936
その他	499,767	528,623	28,855
外国債券	403,290	409,745	6,454
その他	96,476	118,877	22,401
合計	1,954,527	2,116,141	161,613

当第3四半期連結会計期間（平成28年12月31日）

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	91,345	213,828	122,482
債券	1,269,526	1,298,414	28,887
国債	445,071	457,130	12,059
地方債	551,803	566,646	14,842
社債	272,651	274,637	1,986
その他	584,169	598,512	14,342
外国債券	480,089	479,416	△672
その他	104,080	119,095	15,015
合計	1,945,041	2,110,755	165,713

(注) その他有価証券のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落しており、時価が取得原価まで回復する見込みがあると認められないものについては、当該時価をもって四半期連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）とするとともに、評価差額を当第3四半期連結累計期間（前連結会計年度）の損失として処理(以下「減損処理」という。)しております。

前連結会計年度における減損処理額は、1,440百万円（株式1,440百万円）であります。

当第3四半期連結累計期間において減損処理は行っておりません。

また、時価が「著しく下落した」と判断するための基準は自己査定基準に定めております。減損処理は当第3四半期連結会計期間末日（前連結会計年度末日）における時価が取得原価に比べ50%以上下落した銘柄については全て実施し、時価が30%以上50%未満下落した銘柄については、基準日前一定期間の時価の推移や発行会社の財務内容などにより時価の回復可能性を判断し実施しております。

(デリバティブ取引関係)

企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。

(1) 金利関連取引

前連結会計年度（平成28年3月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	100,674	216	233
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合 計		—	216	233

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間（平成28年12月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	金利先物	—	—	—
	金利オプション	—	—	—
店頭	金利先渡契約	—	—	—
	金利スワップ	91,450	172	182
	金利オプション	—	—	—
	その他	—	—	—
合 計		—	172	182

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）等に基づきヘッジ会計を適用しているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(2) 通貨関連取引

前連結会計年度（平成28年3月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—
店頭	通貨スワップ	81,235	97	153
	為替予約	12,196	20	20
	通貨オプション	101,242	—	472
	その他	—	—	—
合計		—	117	647

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日）等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

当第3四半期連結会計期間（平成28年12月31日）

区分	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金融商品 取引所	通貨先物	—	—	—
	通貨オプション	—	—	—
店頭	通貨スワップ	102,906	153	231
	為替予約	16,872	△10	△10
	通貨オプション	118,276	—	540
	その他	—	—	—
合計		—	142	760

(注) 上記取引については時価評価を行い、評価損益を四半期連結損益計算書に計上しております。

なお、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日）等に基づきヘッジ会計を適用している通貨スワップ取引等及び外貨建金銭債権債務等に付されたもので当該外貨建金銭債権債務等の四半期連結貸借対照表表示に反映されているもの、又は当該外貨建金銭債権債務等が連結手続上消去されたものについては、上記記載から除いております。

(3) 株式関連取引

該当事項はありません。

(4) 債券関連取引

該当事項はありません。

(5) 商品関連取引

該当事項はありません。

(6) クレジット・デリバティブ取引

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	円	51.68	55.47
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	23,233	24,620
普通株主に帰属しない金額	百万円	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益	百万円	23,233	24,620
普通株式の期中平均株式数	千株	449,529	443,871
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円	51.61	55.37
(算定上の基礎)			
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額	百万円	—	—
普通株式増加数	千株	668	760
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		—	—

(注) ESOP信託が所有する当行株式は自己株式として認識しており、普通株式の期中平均株式数に含めておりません。当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間3,748千株、当第3四半期連結累計期間2,686千株であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

中間配当

平成28年11月7日開催の取締役会において、第132期の中間配当につき次のとおり決議いたしました。

中間配当金額 2,670百万円

1株当たりの中間配当金 6円00銭

(注) 中間配当金額には、ESOP信託に対する配当金14百万円を含めております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 2月 2日

株式会社 群馬銀行
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩部俊夫	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	山田修	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	日下部恵美	Ⓜ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社群馬銀行の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社群馬銀行及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月3日

【会社名】 株式会社 群馬銀行

【英訳名】 The Gunma Bank, Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役頭取 齋 藤 一 雄

【最高財務責任者の役職氏名】 —

【本店の所在の場所】 群馬県前橋市元総社町194番地

【縦覧に供する場所】 株式会社群馬銀行 東京支店
(東京都中央区日本橋二丁目3番21号)
株式会社群馬銀行 大宮支店
(埼玉県さいたま市大宮区下町二丁目1番地1)
株式会社群馬銀行 宇都宮支店
(栃木県宇都宮市大通り二丁目2番1号)
株式会社群馬銀行 大阪支店
(大阪府大阪市中央区備後町四丁目1番3号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 宇都宮支店及び大阪支店は、金融商品取引法の規定による縦覧に供する場所ではありませんが、投資者の便宜のため確認書を縦覧に供するものであります。

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当行代表取締役頭取 齋藤一雄は、当行の第132期第3四半期（自平成28年10月1日 至平成28年12月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。